

映像から判断した2018年1月23日噴火噴出物の分布

公表されている報道映像をもとに、1月23日噴出物の分布を把握した。噴出物は、火口から北東側に伸びる向きで分布する。斜面に沿って流れた噴煙からもたらされたと考えられる雪面が黒色に着色した部分と、その周囲の灰色に着色した部分に分かれる。噴出物による樹木の延焼や融雪などは認められないことから、噴出物の温度は比較的低温であったと判断される。

マスコミ等で公表されている映像を基に、噴出物の分布を把握した。雪面が噴出物により黒色ないし灰色に着色された部分を図1に示す。

噴出物が特に厚く堆積した黒色の部分（黒色部）の縁はシャープな境界をなし、周囲の灰色の部分（配色部）と明瞭に区別できる。黒色部、灰色部とも推定火口から北東方向に伸びるような形状で分布している。黒色部は、推定火口から北東に伸びる方向に分布する。なお、この積雪上の噴出物は、23日の午後には降雪に覆われ、上空からは観察できなくなった。

噴出物が特に厚く堆積した黒色部の上流部は、草津白根ロープウェイのライブカメラ等に記録された斜面を這うように流れ下った噴煙の流下域と一致する。そのため、黒色部は、斜面を流れ下った噴煙からの噴出物に相当すると考えられる。なお、この斜面を流れ下った噴煙は、火砕サージである可能性がある。

映像からは、推定火口付近においても、顕著な倒木や枝の損傷は認められない。また、樹木の延焼や焼け焦げた跡なども認められない。さらに、融雪の痕跡も認められない。

なだれの痕跡は、極小規模なものはあったが、規模の大きなものは見つからなかった。

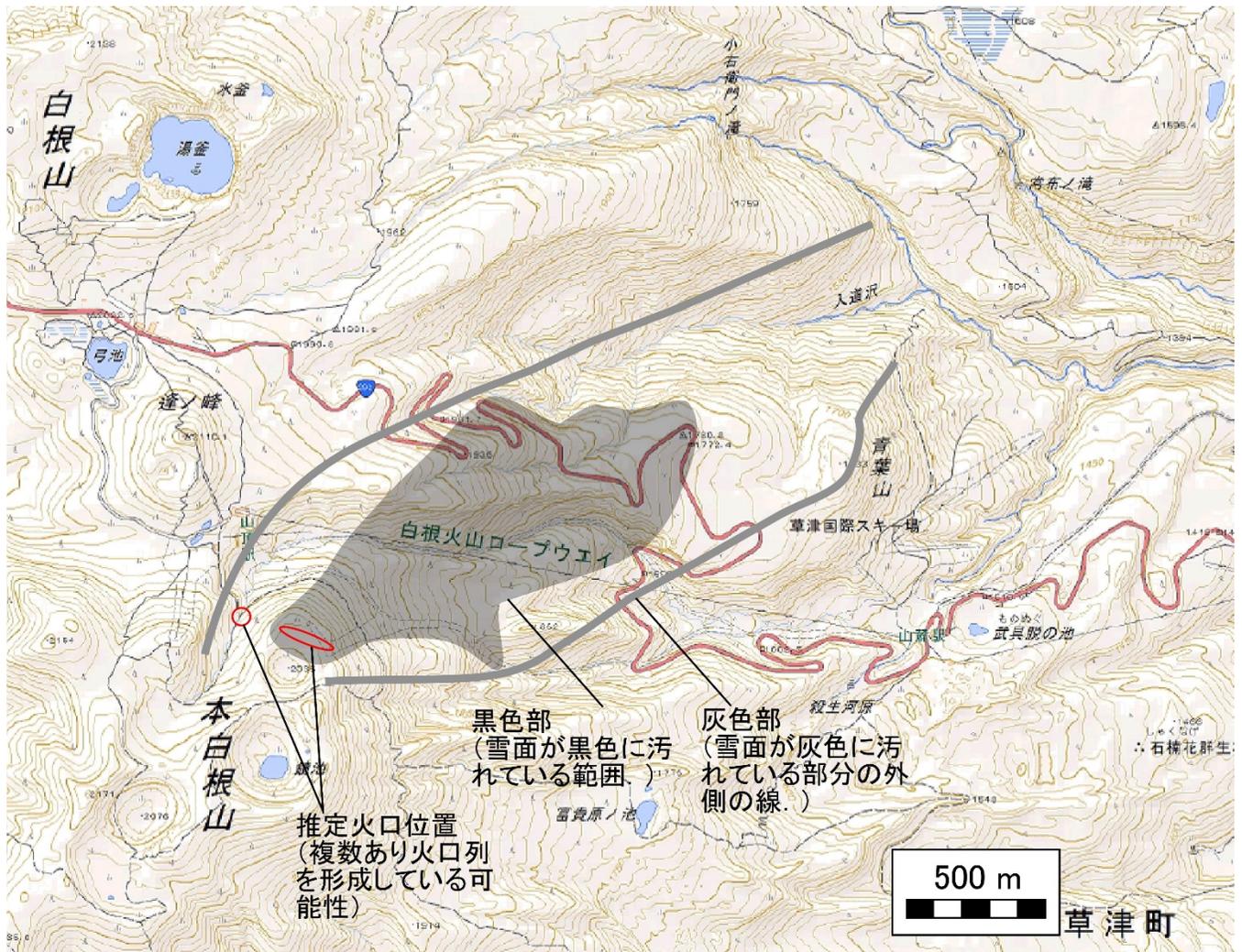


図1 噴出物の分布域

雪面が噴出物により黒および灰色に着色している範囲を図示している。

基図の地図は地理院地図を使用。